

2020/3/23

柏の景気情報(2020年2月分)

柏 商 工 会 議 所

(本件担当) 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報(2020年2月分)

○ 調査期間 : 2020年2月21日 ~ 2020年3月13日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	71	45.5%
建設	44	18	40.9%
製造	33	12	36.4%
卸・小売	44	26	59.1%
サービス	35	15	42.9%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【2020年2月の業況についての状況】

2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲33.8(前月水準▲17.1)となり、マイナス幅が16.7ポイント拡大した。

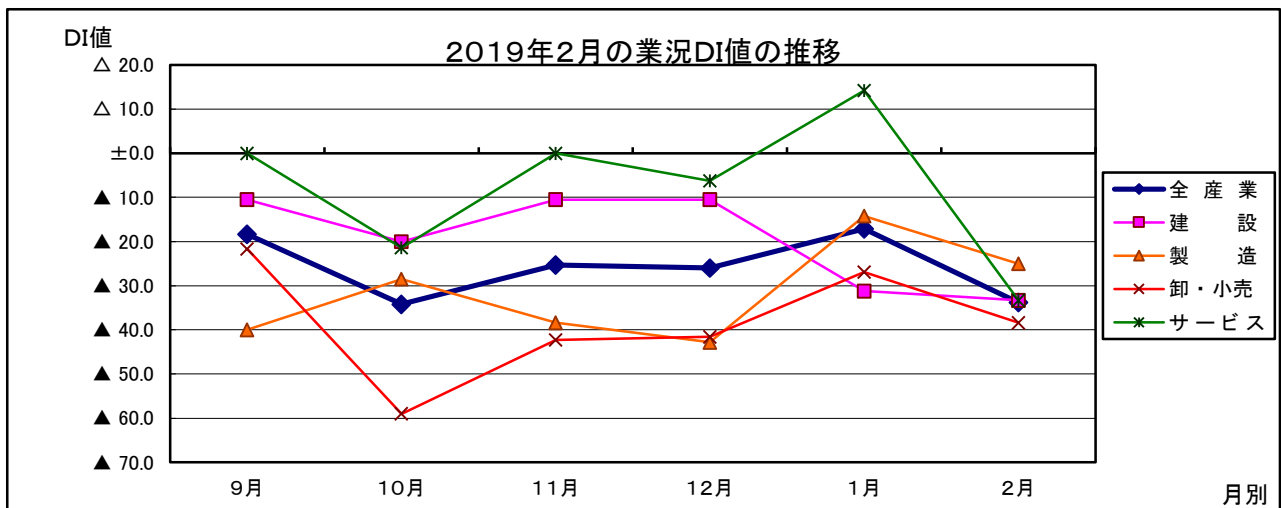
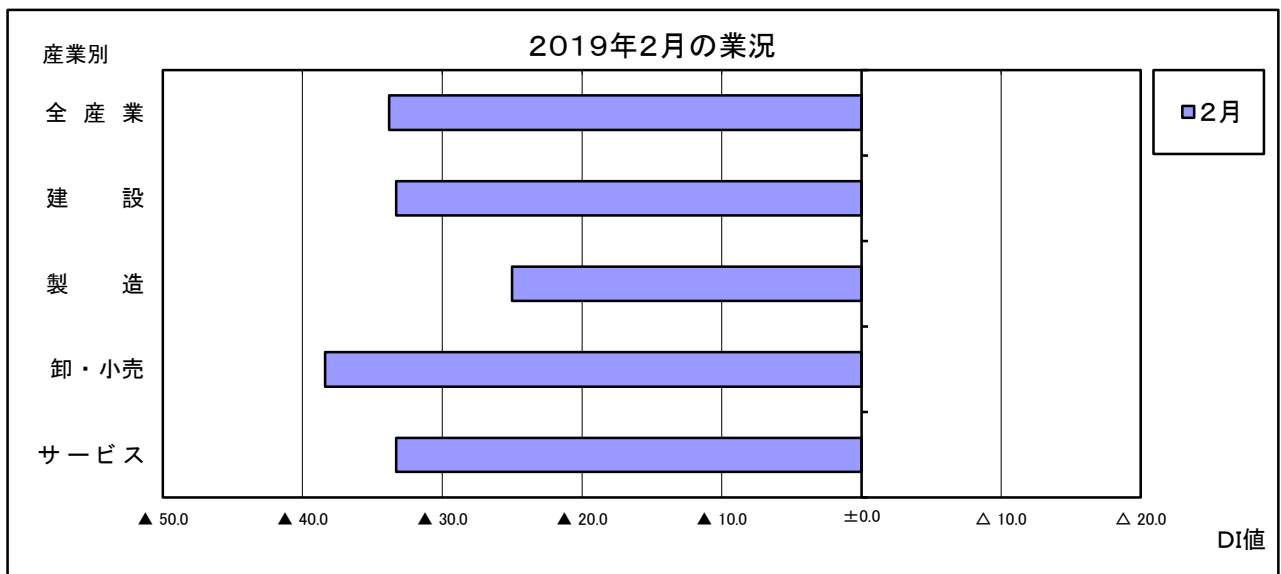
業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲33.3(同△14.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲38.4(同▲26.9)、製造業▲25.0(同▲14.2)、建設業▲33.3(同▲31.2)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲28.1(前月水準▲15.7)となり、マイナス幅が12.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲13.3(同△7.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲25.0(同▲7.1)、卸小売業▲42.3(同▲30.7)、建設業▲22.2(同▲18.7)である。

2020年2月業況DI値(前年同月比)の推移

	2019年 9月	10月	11月	12月	2020年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲18.3	▲34.2	▲25.3	▲26.0	▲17.1	▲33.8	▲28.1(▲15.7)
建設	▲10.5	▲20.0	▲10.5	▲10.5	▲31.2	▲33.3	▲22.2(▲18.7)
製造	▲40.0	▲28.5	▲38.4	▲42.8	▲14.2	▲25.0	▲25.0(▲7.1)
卸・小売	▲21.7	▲59.0	▲42.3	▲41.6	▲26.9	▲38.4	▲42.3(▲30.7)
サービス	±0.0	▲21.4	±0.0	▲6.2	△14.2	▲33.3	▲13.3(△7.1)



【2020年2月の売上についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.1(前月水準▲12.8)となり、マイナス幅が15.3ポイント拡大した。

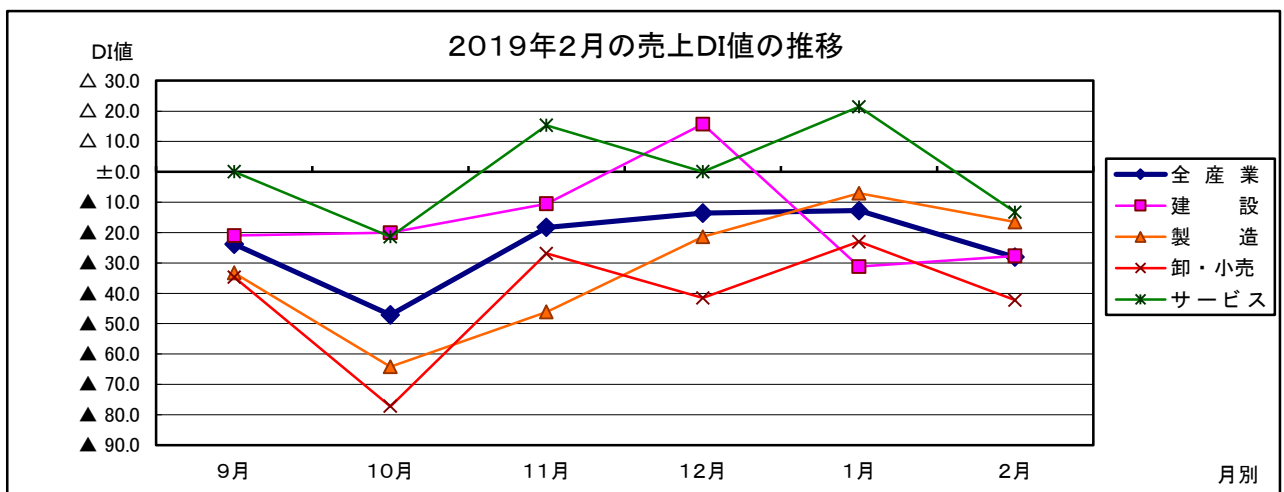
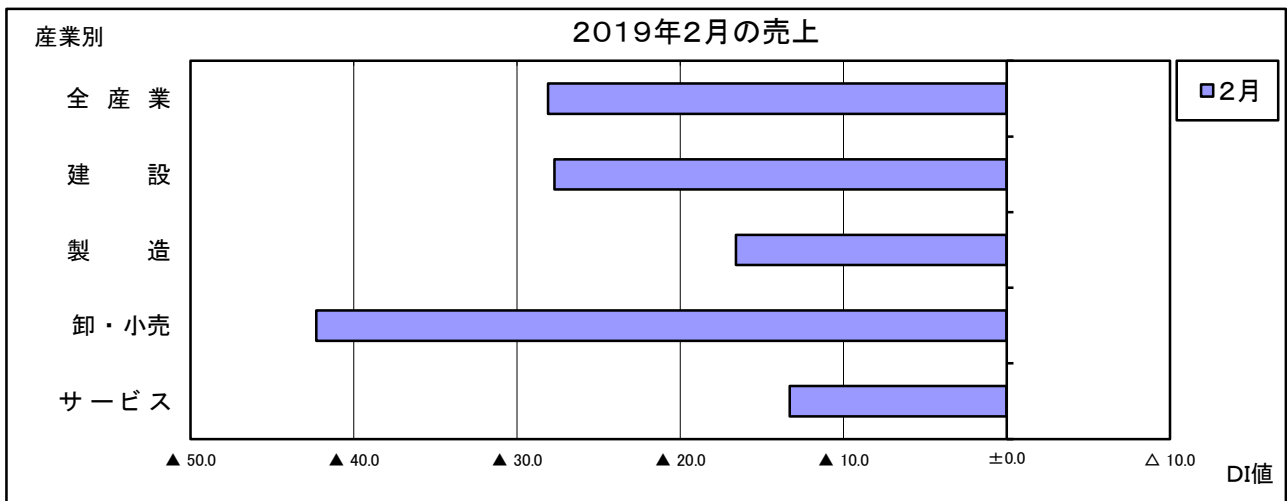
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲27.7(同▲31.2)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲13.3(同△21.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲42.3(同▲23.0)、製造業▲16.6(同▲7.1)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲36.6(前月水準▲7.1)となり、マイナス幅が29.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲20.0(同△21.4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲41.6(同±0.0)、卸小売業▲53.8(同▲26.9)、建設業▲22.2(同▲6.2)である。

2020年2月の売上DI値(前年同月比)の推移

	2019年				2020年		先行き見通し
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月~5月(2月~4月)
全産業	▲23.9	▲47.1	▲18.3	▲13.6	▲12.8	▲28.1	▲36.6(▲7.1)
建設	▲21.0	▲20.0	▲10.5	△15.7	▲31.2	▲27.7	▲22.2(▲6.2)
製造	▲33.3	▲64.2	▲46.1	▲21.4	▲7.1	▲16.6	▲41.6(±0.0)
卸・小売	▲34.7	▲77.2	▲26.9	▲41.6	▲23.0	▲42.3	▲53.8(▲26.9)
サービス	±0.0	▲21.4	△15.3	±0.0	△21.4	▲13.3	▲20.0(△21.4)



【2020年2月の採算についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲29.5(前月水準▲20.0)となり、マイナス幅が9.5ポイ拡大した。

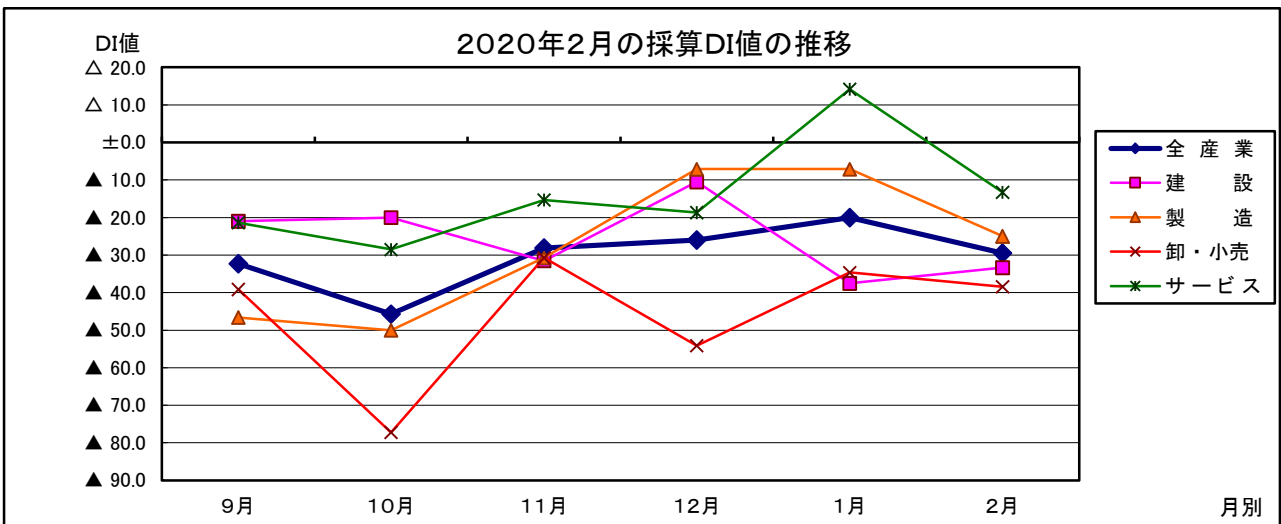
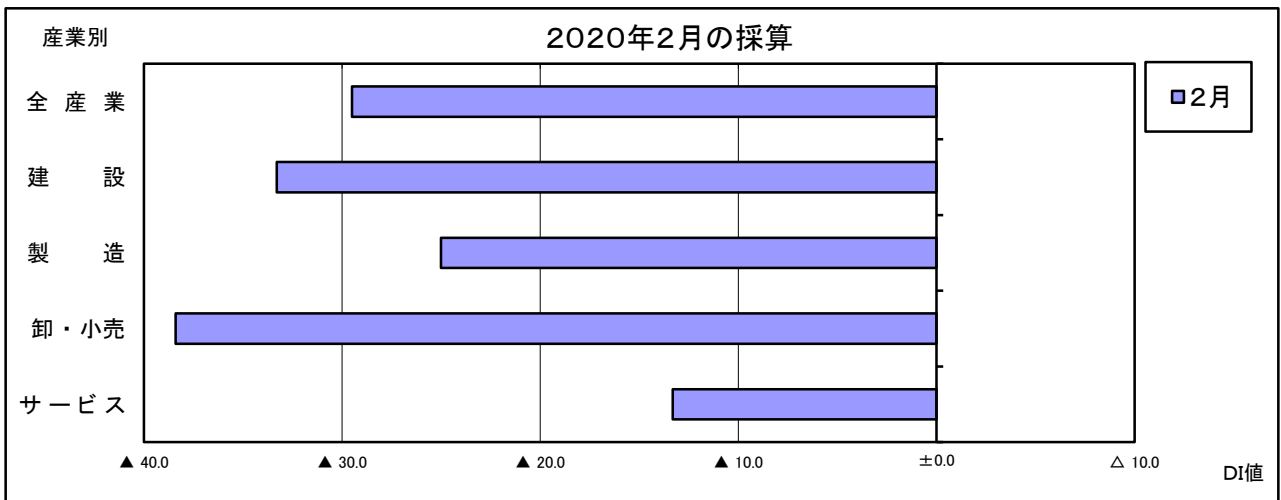
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲33.3(同▲37.5)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲13.3(同△14.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲25.0(同▲7.1)、卸小売業▲38.4(同▲34.6)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲30.9(前月水準▲14.2)であり、マイナス幅が16.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲13.3(同△14.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲41.6(同▲7.1)、建設業▲33.3(同▲18.7)、卸小売業▲34.6(同▲30.7)である。

2020年2月の採算DI値(前年同月比)の推移

	2019年 9月	10月	11月	12月	2020年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲ 32.3	▲ 45.7	▲ 28.1	▲ 26.0	▲ 20.0	▲ 29.5	▲ 30.9 (▲ 14.2)
建設	▲ 21.0	▲ 20.0	▲ 31.5	▲ 10.5	▲ 37.5	▲ 33.3	▲ 33.3 (▲ 18.7)
製造	▲ 46.6	▲ 50.0	▲ 30.7	▲ 7.1	▲ 7.1	▲ 25.0	▲ 41.6 (▲ 7.1)
卸・小売	▲ 39.1	▲ 77.2	▲ 30.7	▲ 54.1	▲ 34.6	▲ 38.4	▲ 34.6 (▲ 30.7)
サービス	▲ 21.4	▲ 28.5	▲ 15.3	▲ 18.7	△ 14.2	▲ 13.3	▲ 13.3 (△ 14.2)



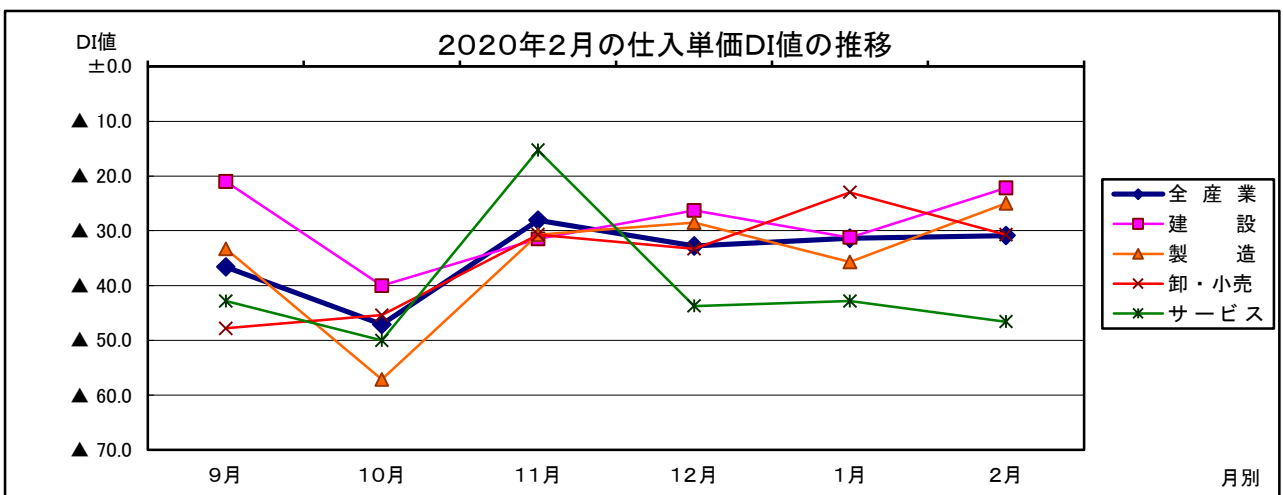
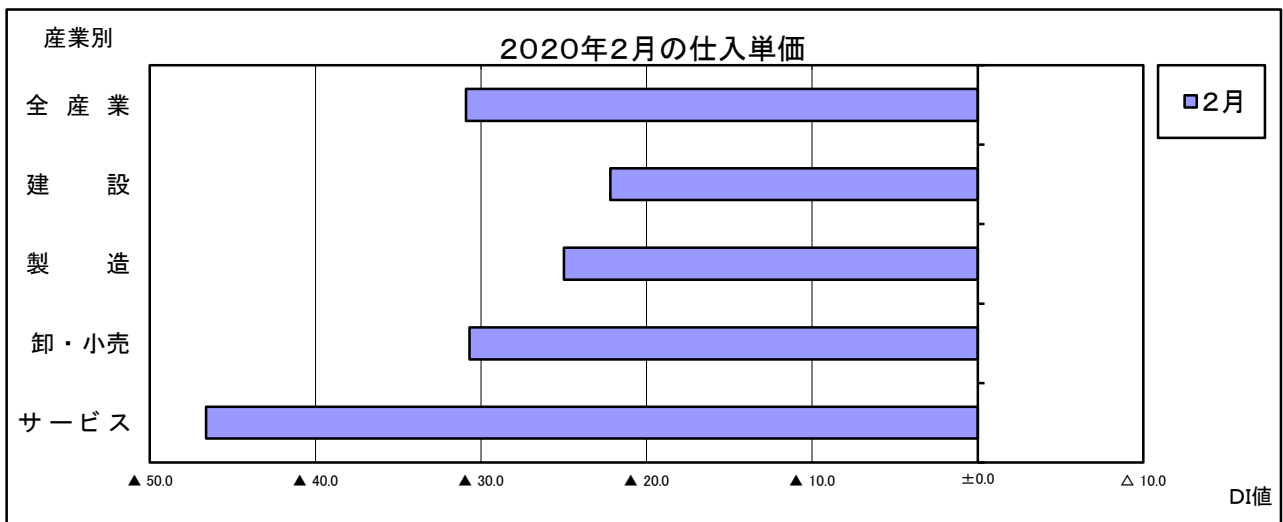
【2020年2月の仕入単価についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30.9(前月水準▲31.4)となり、マイナス幅が0.5ポイント縮小した。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲25.0(同▲35.7)、建設業▲22.2(同▲31.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲30.7(同▲23.0)、サービス業▲46.6(同▲42.8)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲29.5(前月水準▲22.8)となり、マイナス幅が6.7ポイント拡大する見通しである。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲16.6(同▲28.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲33.3(同▲21.4)、卸小売業▲34.6(同▲23.0)、建設業▲27.7(同▲18.7)である。

2020年2月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	2019年 9月	10月	11月	12月	2020年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲36.6	▲47.1	▲28.1	▲32.8	▲31.4	▲30.9	▲29.5(▲22.8)
建設	▲21.0	▲40.0	▲31.5	▲26.3	▲31.2	▲22.2	▲27.7(▲18.7)
製造	▲33.3	▲57.1	▲30.7	▲28.5	▲35.7	▲25.0	▲16.6(▲28.5)
卸・小売	▲47.8	▲45.4	▲30.7	▲33.3	▲23.0	▲30.7	▲34.6(▲23.0)
サービス	▲42.8	▲50.0	▲15.3	▲43.7	▲42.8	▲46.6	▲33.3(▲21.4)



【2020年2月の従業員についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△23.9(前月水準△28.5)となり、プラス幅が4.6ポイント縮小した。

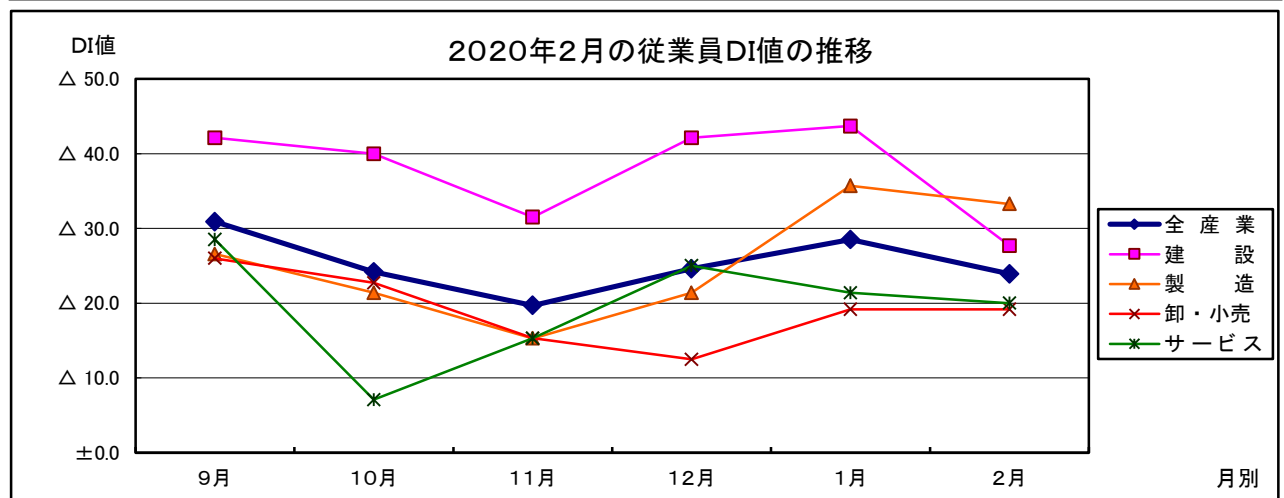
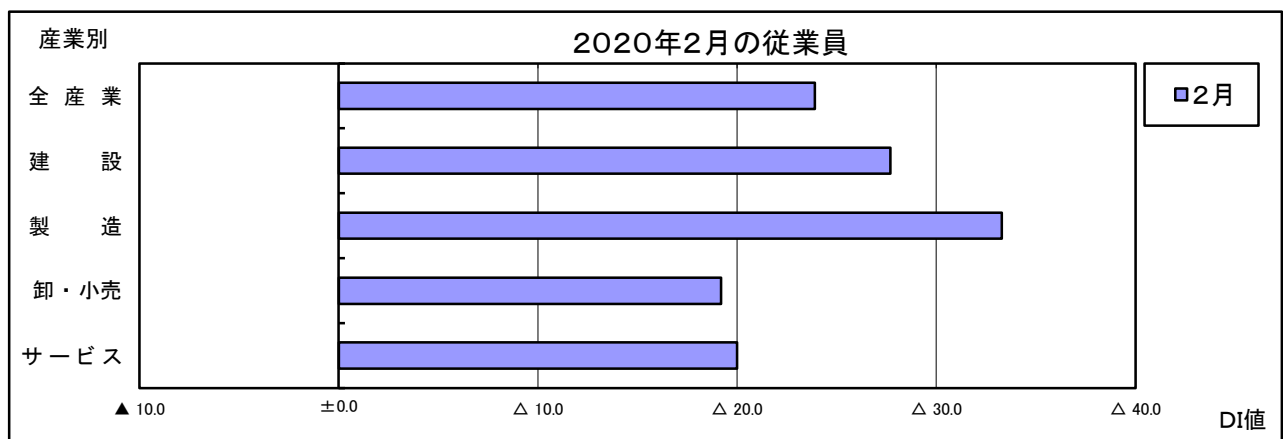
業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、卸小売業▲19.2(同▲19.2)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業△27.7(同△43.7)、製造業△33.3(同△35.7)、サービス業△20.0(同△21.4)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、△19.7(前月水準△24.2)となり、プラス幅が4.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△33.3(同△21.4)、サービス業△20.0(同△14.2)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△33.3(同△21.4)、サービス業△20.0(同△14.2)である。

2020年2月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	2019年 9月	10月	11月	12月	2020年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	△ 30.9	△ 24.2	△ 19.7	△ 24.6	△ 28.5	△ 23.9	△ 19.7 (△ 24.2)
建設	△ 42.1	△ 40.0	△ 31.5	△ 42.1	△ 43.7	△ 27.7	△ 22.2 (△ 43.7)
製造	△ 26.6	△ 21.4	△ 15.3	△ 21.4	△ 35.7	△ 33.3	△ 33.3 (△ 21.4)
卸・小売	△ 26.0	△ 22.7	△ 15.3	△ 12.5	△ 19.2	△ 19.2	△ 11.5 (△ 19.2)
サービス	△ 28.5	△ 7.1	△ 15.3	△ 25.0	△ 21.4	△ 20.0	△ 20.0 (△ 14.2)



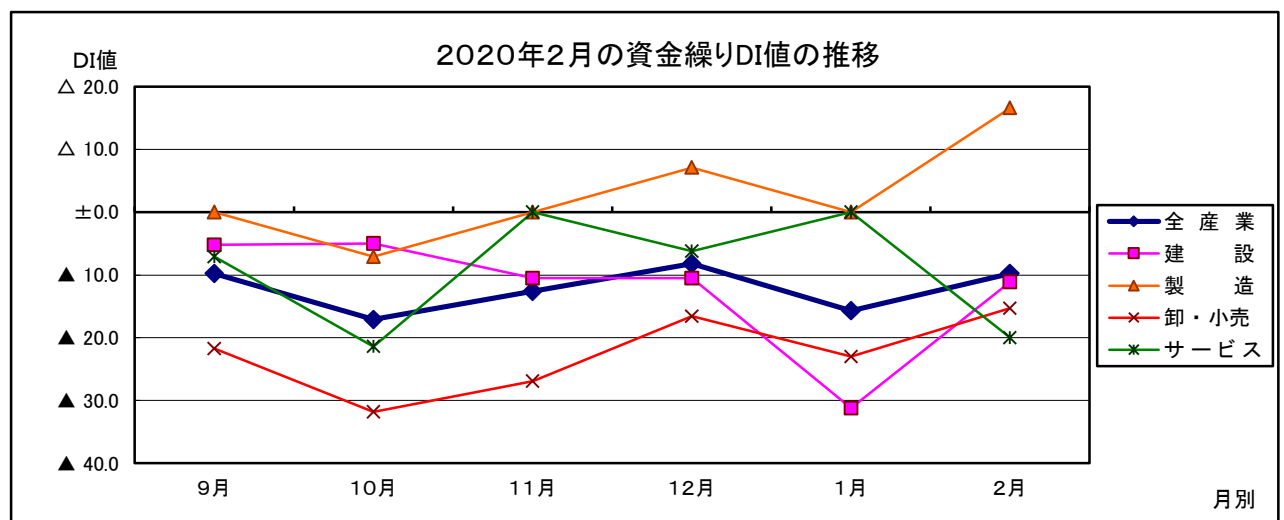
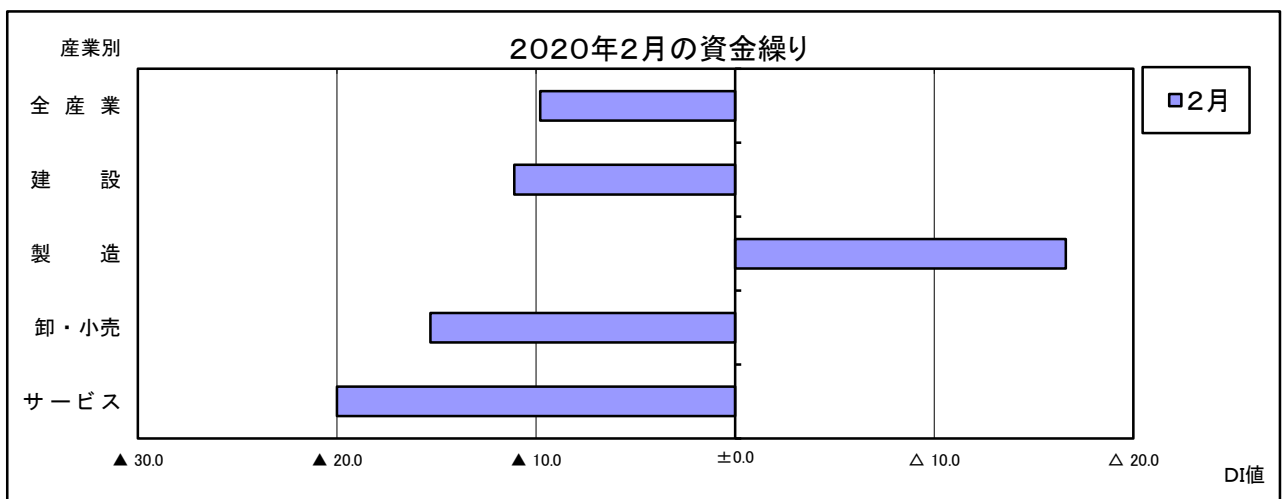
【2020年2月の資金繰りについての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲9.8(前月水準▲15.7)となり、マイナス幅が5.9ポイント縮小した。
 業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△16.6(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲11.1(同▲31.2)、卸小売業▲15.3(同▲23.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲20.0(同±0.0)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲11.2(前月水準▲10.0)となり、マイナス幅が1.2ポイント拡大する見通しである。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲5.5(同▲18.7)である。変らない見通しの業種は、卸小売業△19.2(同△19.2)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業±0.0(同△7.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲13.3(同±0.0)である。

2020年2月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	2019年 9月	10月	11月	12月	2020年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲9.8	▲17.1	▲12.6	▲8.2	▲15.7	▲9.8	▲11.2(▲10.0)
建設	▲5.2	▲5.0	▲10.5	▲10.5	▲31.2	▲11.1	▲5.5(▲18.7)
製造	±0.0	▲7.1	±0.0	△7.1	±0.0	△16.6	±0.0(△7.1)
卸・小売	▲21.7	▲31.8	▲26.9	▲16.6	▲23.0	▲15.3	▲19.2(▲19.2)
サービス	▲7.1	▲21.4	±0.0	▲6.2	±0.0	▲20.0	▲13.3(±0.0)



【2020年2月の調査結果のポイント】

《全産業DIは大幅悪化。新型コロナウイルスに対する厳しい見方が多く、長期化を懸念》

2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲33.8(前月水準▲17.1)となり、マイナス幅が16.7ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲33.3(同△14.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲38.4(同▲26.9)、製造業▲25.0(同▲14.2)、建設業▲33.3(同▲31.2)である。

【建設業】からは、「消費マインドの低下を感じる。必要最低限以外の消費が無い」(一般土木建築工事業)とのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「次々と起きる出来事に世界全体が右往左往。現状維持に努める」(印刷業)とのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「消費増税+新型コロナウイルスがどの位影響しているのか。最近にないマイナスでどうしたらよいのか全く分からない」(婦人・子供服小売業)、「パレンタインの売上は前年比増」(洋菓子店)、「キャッシュレス(特に〇〇pay)での支払いが増えた」(洋菓子店)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「台風や新型コロナウイルス等、元気がない状況が続いて動きが悪い。早く収束して環境が明るくなれば」(不動産管理業)、「賃貸市場は繁忙期入りで、動きは通常通り。つくばTX沿線は部屋タイプによって需給の強弱が出ている印象」(不動産賃貸・管理業)、「当面も人材不足が経営好転に繋がると考える」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎新型コロナウイルスの影響

「影響はないが、今後の情勢によっては不明。災害だけでなく危機管理が問われる」(電気工事業)、「工事を延期したいというお客様が。一日も早い特効薬の出現を期待」(畳工事請負・畳製造販売業)、「新型コロナウイルスの影響で先が見えない」(職別工事業)、「イベント、祭り等が中止となり、ポスター、チラシ、パンフレットの注文が軒並みキャンセル。2月の売上高は今期最低。営業展開に悩む」(印刷業)、「中国での部品生産の遅れや輸入減少が長期化すれば、売上減少が見込まれる」(自動車付属品製造業)、「新型コロナウイルスにより景況悪化、受注減。サプライチェーンに伴う停滞。先行き不透明感が増す」(金属素形材製品製造業)、「輸入品の納期に遅れが発生」(機械・同部品製造業)、「不要不急の外出を控える動きと一斉休校による影響か、特に2月末以降、来店客が減少し通販に流れている様子。当分業績へ影響すると見える。工作上必需品であるマスク等衛生消耗品の入荷見込みもなく、新年度からの業務が心配」(飲食料点小売業)、「影響は非常に大きく、報道以降、中国人の姿は見えず駅周辺はガラガラ。ウイルス収束が見えない今、今後の予想がつかない」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「マスク・除菌関係の商品は品薄。食品では免疫力を高めるといわれるドリンク、ヨーグルト、納豆、乳酸菌等が好調。外出を控えているせい、簡便、時短、家飲み商品が好調。長期保存の水、冷凍、インスタント食品も好調」(大型小売店)、「2月に入り入店客数は▲4.5%。新型コロナウイルスの売上影響は3月以降も続く予想」(百貨店)、「先行きが不透明で不安が大きい。小売業にとって長引くのはかなりの痛手」(各種商品小売業)、「新型コロナウイルスの影響あり、春物商品が売れていない」(食料・飲料卸売業)、「2月は祝日が多く、うるう年による日数増加で売上は伸長。しかし下旬は新型コロナウイルスによって集客・売上共に減少。飲食店・食料品店を除いた営業時間の短縮を始め、3月は厳しい状況」(各種商品小売業)、「影響を受け売場が減少し、売上減少。先行きが不安」(菓子・パン小売業)、「中旬までは良かったが、下旬は客数が2割減、売上は1.5割減。一斉休校で子供は見えなくなり、ランチ客も減っている様子。3月以降は厳しくなりそう」(菓子・パン小売業)、「東日本大震災に比べれば問題ないと思う。3月の宴会キャンセルはあるが、常に最悪の状態を想定して事業を展開している」(酒場・ビヤホール)、「下旬より予約キャンセルが相次ぎ、来店客減少。3月の歓送迎会等、団体予約はほぼキャンセル。収束が見えないと回復は厳しい。長引けば廃業のお店が出そう」(日本料理)、「2月は新型コロナウイルスのニュースで経済の流れが完全に静止。消費税も重く、サービス業、製造業はもろに効いた。市内も人の行き来が極端に少ない」(投資顧問)、「目先ではやはり新型コロナウイルス拡散による経済影響がすごく心配」(不動産賃貸・管理業)との声寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
9月	▲18.3	▲10.5	▲40.0	▲21.7	±0.0
10月	▲34.2	▲20.0	▲28.5	▲59.0	▲21.4
11月	▲25.3	▲10.5	▲38.4	▲42.3	±0.0
12月	▲26.0	▲10.5	▲42.8	▲41.6	▲6.2
1月	▲17.1	▲31.2	▲14.2	▲26.9	△14.2
2月	▲33.8	▲33.3	▲25.0	▲38.4	▲33.3
見通し	▲28.1	▲22.2	▲25.0	▲42.3	▲13.3

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 28.1	▲ 36.6	▲ 29.5	▲ 30.9	▲ 30.9	▲ 29.5	△ 23.9	△ 19.7
建設	▲ 27.7	▲ 22.2	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 22.2	▲ 27.7	△ 27.7	△ 22.2
製造	▲ 16.6	▲ 41.6	▲ 25.0	▲ 41.6	▲ 25.0	▲ 16.6	△ 33.3	△ 33.3
卸・小売	▲ 42.3	▲ 53.8	▲ 38.4	▲ 34.6	▲ 30.7	▲ 34.6	△ 19.2	△ 11.5
サービス	▲ 13.3	▲ 20.0	▲ 13.3	▲ 13.3	▲ 46.6	▲ 33.3	△ 20.0	△ 20.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 33.8	▲ 28.1	▲ 9.8	▲ 11.2
建設	▲ 33.3	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 5.5
製造	▲ 25.0	▲ 25.0	△ 16.6	±0.0
卸・小売	▲ 38.4	▲ 42.3	▲ 15.3	▲ 19.2
サービス	▲ 33.3	▲ 13.3	▲ 20.0	▲ 13.3

2020年2月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲33.8に対し、「CCI-LOBO」が▲32.6で柏の方がマイナス幅が1.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、サービス業であり、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲28.1に対し、「CCI-LOBO」が▲25.1で柏の方がマイナス幅が3.0ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲29.5に対し、「CCI-LOBO」が▲28.2で柏の方がマイナス幅が1.3ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲30.9に対し、「CCI-LOBO」が▲31.6で柏の方がマイナス幅がポイント0.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△23.9に対し、「CCI-LOBO」が△20.4で柏の方がプラス幅が3.5ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、サービス業である。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲9.8に対し、「CCI-LOBO」が▲15.8で柏の方がマイナス幅が6.0ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、サービス業である。

【2020年2月業種別業界内トピックス】



業種別	概況	トピック	業種
建設業	消費マインドの低下を感じる。必要最低限の事以外の消費が無い。	消費行動の低下	一般土木建築工事業
	新型コロナウイルスの影響はないが、今後の情勢によっては不明。災害だけでなく危機管理が問われるだろう。	新型コロナウイルス	電気工事業
	新型コロナウイルスの影響で工事の延期をしたいというお客様が出た。一日も早い特效薬の出現を期待したい。	新型コロナウイルス	量工事請負・量製造販売業
	新型コロナウイルスの影響で先が見えない。	新型コロナウイルス	職別工事業
製造業	新型コロナウイルスでイベント、祭り、売り出しが中止となり、ポスター、チラシ、パンフレットの注文が軒並みキャンセル。2月の売上高は今期最低。営業展開、策に悩む。	新型コロナウイルス 売上減少	印刷業
	新型コロナウイルスによる中国での部品生産の遅れや輸入減少が長期化すれば、売上減少が見込まれる。	新型コロナウイルス	自動車付属品製造業
	新型コロナウイルスの影響で景況悪化、受注減。サプライチェーンに伴う停滞。先行き不透明感が増す。	新型コロナウイルス 景況悪化 先行き不透明	金属素形材製品製造業
	新型コロナウイルスの影響により、輸入品の納期に遅れが発生している。	新型コロナウイルス	機械・同部品製造業
	次々と起きる出来事に世界全体が右往左往している。仮想し過ぎず、拡大し過ぎず、現状の維持に努める。	経済情勢の変化	印刷業
卸小売業	不要不急の外出を控える動きと一斉休校の要請の影響が、来店客が減少、通販に客が流れている様子。特に2月末以降この傾向が強い。当分続くと思われ、業績への影響が大きい。仕事上、マスク、消毒剤等の衛生消耗品は必需品だが、入荷の見込みがなく新年度からの業務に差し支えるので心配である。	来店客減少 先行き不安	飲食料品小売業
	消費増税+コロナウイルスがどの位影響しているのか。最近にない程のマイナス。気候も影響し、全くどうしたらよいか分からない。	売上減少 消費増税 新型コロナウイルス	婦人・子供服小売業
	新型コロナウイルスの影響は非常に大きく、人の集まる場所は避けている様子。報道翌日以降、中国人の姿も見えなくなり、駅周辺もガラガラ。ウイルス収束が見えない今、これからどうなるのか予想がつかない。	新型コロナウイルス 先行き不透明	時計・眼鏡・光学機械小売業
	新型コロナウイルスに関連して、マスク・除菌関係の商品は品薄。食品では免疫力を高めるといわれるドリンク、ヨーグルト、納豆、乳酸菌等が好調。外出を控えているせいか、簡便、時短、宅飲み商品が好調。長期保存の水、冷凍、インスタント食品も好調。	新型コロナウイルス 食料品売上好調	大型小売店
	3、4月は売上が年間の5割になる。	売上増加	書籍・文房具小売業
	2月に入り入店客数が▲4.5%と減少。新型コロナウイルスの売上への影響は3月以降も続くと予想。	来店客減少 新型コロナウイルス	百貨店
	新型コロナウイルスの件は先行きが不透明で不安が大きい。小売業にとって長引くのはかなりの痛手。	新型コロナウイルス 先行き不透明	各種商品小売業
	バレンタインの売上が前年比増。	売上増加	洋菓子店
	新型コロナウイルスの影響があり、春物商品が売れていない。	新型コロナウイルス	食料・飲料卸売業
	キャッシュレス(特に〇〇pay)での支払いが増えた。	キャッシュレス	洋菓子店
	2月は祝日が多く、うるう年による日数増加で売上は伸長。しかし下旬の3連休の頃は、新型コロナウイルスによって売上・集客共に減少。飲食店、食料品店を除いた営業時間の短縮を実施し、3月は厳しい状況。	売上増加 新型コロナウイルス	各種商品小売業
	新型コロナウイルスの影響で売り場が減少し、売上減少。先行きが不安。	新型コロナウイルス 先行き不安	菓子・パン小売業
	中旬までは良かったが、新型コロナウイルスの影響が下旬は客数が2割減、売上は1.5割減。一斉休校で子供も見えなくなり、お屋に買い物に来ていた女性客も減っている様子で、3月以降は厳しくなりそう。	新型コロナウイルス 先行き不安	菓子・パン小売業
サービス業	9年前の東日本大震災に比べれば問題ないと思う。もちろん3月の宴会のキャンセルはあるが、常に最悪の状態を想定して事業を展開している。	新型コロナウイルス	酒場・ビヤホール
	新型コロナウイルスの影響で2月下旬より予約のキャンセルが相次ぎ、来店客減少。3月の歓送迎会等、団体予約はほぼキャンセルに。新型コロナウイルスの収束が見えないと回復は厳しい状況。長引けば廃業のお店が出てくるのではないかと。	新型コロナウイルス 来店客減少 予約キャンセル	日本料理
	2月は新型コロナウイルスのニュースで経済の流れが完全に静止。特にサービス産業は苦しい展開で、従事者や関係人数は全体の75%に当たり、経済に大打撃を与えた。製造業も中国関係がもろに効き厳しい月に。しかし新型コロナウイルス発祥の武漢では、AI自動車が薬の気配で先が暗いわけではない。3月いっぱいでは先は見えてくるとみる。柏市内も人の行き来が極端に少ない。	新型コロナウイルス 市内通行人減少	投資顧問
	台風の影響や新型コロナウイルス等、あまり元気のない状況が続いている。全体的に動きが悪い。早く収束してもっと環境が明るくなってほしい。	台風 新型コロナウイルス	不動産管理業
	賃貸市場は繁忙期入りで、動きは通年通り。つくばTX沿線では部屋タイプによって需給の強弱が出ている印象。目先ではやはり新型コロナウイルスの拡散による経済影響がすごく心配。	新型コロナウイルス 先行き不安	不動産賃貸・管理業
	当面も人材不足が経営好転に繋がると考える。	人材不足	ソフトウェア業











◎新型コロナウイルスの影響











「影響はないが、今後の情勢によっては不明。災害だけでなく危機管理が問われる」(電気工事業)、「工事を延期したいというお客様が。一日も早い特効薬の出現を期待」(畳工事請負・畳製造販売業)、「新型コロナウイルスの影響で先が見えない」(職別工事業)、「イベント、祭り等が中止となり、ポスター、チラシ、パンフレットの注文が軒並みキャンセル。2月の売上高は今期最低。営業展開に悩む」(印刷業)、「中国での部品生産の遅れや輸入減少が長期化すれば、売上減少が見込まれる」(自動車付属品製造業)、「新型コロナウイルスにより景況悪化、受注減。サプライチェーンに伴う停滞。先行き不透明感が増す」(金属素形材製品製造業)、「輸入品の納期に遅れが発生」(機械・同部品製造業)、「不要不急の外出を控える動きと一斉休校による影響か、特に2月末以降、来店客が減少し通販に流れている様子。当分業績へ影響すると見える。工作上必需品であるマスク等衛生消耗品の入荷見込みもなく、新年度からの業務が心配」(飲食料品小売業)、「影響は非常に大きく、報道以降、中国人の姿は見えず駅周辺はガラガラ。ウイルス収束が見えない今、今後の予想がつかない」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「マスク・除菌関係の商品は品薄。食品では免疫力を高めるといわれるドリンク、ヨーグルト、納豆、乳酸菌等が好調。外出を控えているせい、簡便、時短、家飲み商品が好調。長期保存の水、冷凍、インスタント食品も好調」(大型小売店)、「2月に入り入店客数は▲4.5%。新型コロナウイルスの売上影響は3月以降も続く予想」(百貨店)、「先行きが不透明で不安が大きい。小売業にとって長引くのはかなりの痛手」(各種商品小売業)、「新型コロナウイルスの影響あり、春物商品が売れていない」(食料・飲料卸売業)、「2月は祝日が多く、うるう年による日数増加で売上は伸長。しかし下旬は新型コロナウイルスによって集客・売上共に減少。飲食店・食料品店を除いた営業時間の短縮を始め、3月は厳しい状況」(各種商品小売業)、「影響を受け売場が減少し、売上減少。先行きが不安」(菓子・パン小売業)、「中旬までは良かったが、下旬は客数が2割減、売上は1.5割減。一斉休校で子供は見えなくなり、ランチ客も減っている様子。3月以降は厳しくなりそう」(菓子・パン小売業)、「東日本大震災に比べれば問題ないと思う。3月の宴会キャンセルはあるが、常に最悪の状態を想定して事業を展開している」(酒場・ビヤホール)、「下旬より予約キャンセルが相次ぎ、来店客減少。3月の歓送迎会等、団体予約はほぼキャンセル。収束が見えないと回復は厳しい。長引けば廃業のお店が出そう」(日本料理)、「2月は新型コロナウイルスのニュースで経済の流れが完全に静止。消費税も重く、サービス業、製造業はもろに効いた。市内も人の行き来が極端に少ない」(投資顧問)、「目先ではやはり新型コロナウイルス拡散による経済影響がすごく心配」(不動産賃貸・管理業)との声が寄せられた。











2020年2月の木の景気天気図











木の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較









景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 33.8	 ▲ 33.3	 ▲ 25.0	 ▲ 38.4	 ▲ 33.3
CCI-LOBO	 ▲ 32.6	 ▲ 13.0	 ▲ 41.5	 ▲ 39.5	 ▲ 28.6

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 28.1	 ▲ 27.7	 ▲ 16.6	 ▲ 42.3	 ▲ 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 25.1	 ▲ 8.5	 ▲ 34.0	 ▲ 35.2	 ▲ 20.7

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 29.5	 ▲ 33.3	 ▲ 25.0	 ▲ 38.4	 ▲ 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 28.2	 ▲ 16.8	 ▲ 33.4	 ▲ 34.4	 ▲ 26.4

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 30.9	 ▲ 22.2	 ▲ 25.0	 ▲ 30.7	 ▲ 46.6
CCI-LOBO	 ▲ 31.6	 ▲ 39.9	 ▲ 27.9	 ▲ 29.4	 ▲ 33.2

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 23.9	 27.7	 33.3	 19.2	 20.0
CCI-LOBO	 20.4	 36.1	 10.1	 17.9	 24.7

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 9.8	 ▲ 11.1	 16.6	 ▲ 15.3	 ▲ 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 15.8	 ▲ 5.7	 ▲ 19.2	 ▲ 20.1	 ▲ 16.0

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(2月速報)

調査期間：2020年2月12日～18日

調査対象：全国の335商工会議所が2,624企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは大幅に悪化先行きは、新型コロナウイルスに伴う懸念広がる

2月の全産業合計の業況DIは、▲32.6と、前月から▲5.8ポイントの悪化。都市部の再開発を中心とした民間工事や公共工事は堅調なもの、新型コロナウイルス流行の影響が大きく、中国からの団体旅行客などのインバウンドを含む観光需要の落ち込みや国内客の客足減少を受けたサービス業や小売業をはじめ、サプライチェーンの混乱により生産や物流に影響が及んでいく製造業や卸売業の業況感が悪化した。また、根強い消費者の節約志向や深刻な人手不足、人件費の上昇、世界経済の先行き不透明感が依然として広く業況の押し下げ要因となっており、中小企業の業況改善に向けた動きには遅れが見られる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲31.5（今月比+1.1ポイント）と改善を見込む。補正予算など経済対策への期待感がうかがえる一方、新型コロナウイルス

スの流行によるインバウンドを含む観光需要の鈍化やサプライチェーン・生産活動への影響、消費税率引上げ、人件費の上昇や受注機会の損失など人手不足の深刻化、原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、世界経済の動向など不透明感が増す中、中小企業の業況感は慎重な姿勢が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、全ての業種で悪化した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「持ち家などの住宅建設の動きは鈍いが、公共工事や設備投資関連の受注が伸び、売上改善となった。今後も堅調な動きを見込んでいるが、技術者や下請業者の確保が難航するなど深刻な人手不足の影響が足かせとなっており、業務量に比べ人手が足りない状況が続いている」（一般工事業、「現在のところ、新型コロナウイルス

ルの流行による経営への直接的影響は出ていないが、原材料や部品の納期遅れの連絡が入り始めている。今後の業績に響かないようにしたいが、先行き不透明感が強い」（電気通信工事業）

【製造業】「中華街エリアでの売上が大幅に減少しているほか、従業員の渡航歴確認や外国人労働者への対応が必要となっている。インバウンド需要の減少が続いたり、国内の各種イベントが中止されれば、売上に影響することは必ずであり、今後の行方を懸念している」（食料品製造業）、「新型コロナウイルスの影響で中国工場の操業を停止した。中国当局が課す再稼働の条件が厳しく、再開の見通しがたかない」（工業用プラスチック製造業）

【卸売業】「今のところ、売上・採算ともに前年並みを維持しているが、製品の輸出に当たり、新型コロナウイルス流行の影響で中国向けの貨物の出航が取りやめになっており、今後の動向を注視している」（一般機械器具卸売業）、「海外からの旅行客減少により、取引先の売上が落ち込み、当社の受注も低迷している。」

中国産青果物の輸入量が減少しているため、国産野菜の価格上昇が予想されるが、今冬は生育が好調で安値となっていたこともあり、想定が難しくリスク要因となっている」（飲食料品卸売業）

【小売業】「新型コロナウイルスの流行に伴い、地元市民が人混みへの外出を控えている印象があり、客足は鈍く、売上が悪化した。中国製食品への依存度が高く、既に仕入れ済みの春物への影響は少ないが、夏物については納期遅れや中国での減産が起きる可能性があり、業績への影響を懸念している」（衣料品小売業）、「感染予防商品への需要が非常に高く、マスクやハンドソープ、手指消毒剤、アルコール除菌商品などの品薄状態が続いている」（医薬品・化粧品小売業）

【サービス業】「積雪量が例年に比べ少なく、交通規制等で輸送が滞ることはほとんど無かったが、冬物商材の需要低減から荷動きが少なく、売上減少の一因となった。また、新型コロナウイルスの影響により中国向け輸出入商品の取扱量が今後さらに減少することが予

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
9月	▲20.0	▲4.8	▲21.1	▲30.6	▲27.5	▲17.1
10月	▲24.1	▲7.9	▲25.3	▲26.9	▲38.6	▲20.4
11月	▲26.8	▲6.9	▲28.5	▲29.4	▲42.4	▲23.8
12月	▲29.4	▲12.8	▲35.8	▲31.4	▲40.4	▲23.9
1月	▲26.8	▲10.4	▲31.1	▲28.9	▲38.0	▲23.4
2月	▲32.6	▲13.0	▲41.5	▲37.5	▲39.5	▲28.6
見通し	▲31.5	▲17.4	▲32.4	▲36.2	▲39.7	▲30.5

想され、全体の売上が増々悪化する恐れがある」（運送業）、「日韓情勢により韓国入客が減少している中で、今度は新型コロナウイルスの広がりにより、中国からの団体客も激減した。さらに日本人客から宴会のキャンセルも入っており、売上は大打撃を受けている。損失をカバーできる材料を模索するも見つからず、今後も厳しい状況が続く」（宿泊業）

